

13 章 ネット・セキュリティへの不安

13章 ネット・セキュリティへの不安

本調査では、インターネット上のセキュリティに対する不安の実態を調べるために、個人情報の漏洩、コンピュータウイルスへの感染、不正アクセス、ネット詐欺、ネット上の中傷誹謗、ネット上の有害情報という6種類のセキュリティ不安について尋ねた。このうち4項目については、2000年から2003年までのW I P調査との比較も合わせて行っている。

13.1 個人情報の漏洩に関する不安

情報化、ネットワーク化の進展とともに、個人の住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス、職業、病歴、パスワードといったプライバシー度の高い個人情報がコンピュータ上にデータベースとして蓄積され、ネットワークを通じて流出するといった事故や犯罪が激増している。また、自分のアクセスしたウェブサイトに関する情報や、自分のやりとりしたメールの内容が他人に漏れてしまうケースも少なからず発生している。こうしたインターネットを通じた個人情報の漏洩に関して、一般の人々はどの程度の不安を感じているのだろうか。

本調査では、「自分が見たウェブサイトや自分がやりとりしたメールの内容が他人に知られてしまうこと」「名前・住所・勤務先・クレジットカード番号・パスワードなどが他人に漏れてしまうこと」への不安を「非常に不安を感じる」から「まったく不安を感じない」まで5段階の尺度で回答してもらった。図13.1は「自分が見たウェブサイトや自分のやりとりしたメールの内容が他人に知られてしまうこと」への不安に関する単純結果である。

13.1.1 自分が見たウェブサイトや自分がやりとりしたメールの内容が他人に知られてしまうことへの不安

「非常に不安を感じる」人が全体の36.1%とかなりの高率に上っている。「多少不安」を含めると全体の76.5%の人がこうした個人情報の漏洩に対して不安を感じていることがわかる。

不安の程度を2001年から2005年まで比較してみると、図13.2のようになっている。これは「非常に不安」「ある程度不安」を合わせた回答率のグラフである。2003年以降、「非常に不安を感じる」人の割合が急増していることがわかる。

図 13.1 自分が見たウェブサイトや自分のやりとりしたメールが漏れることへの不安 (%)

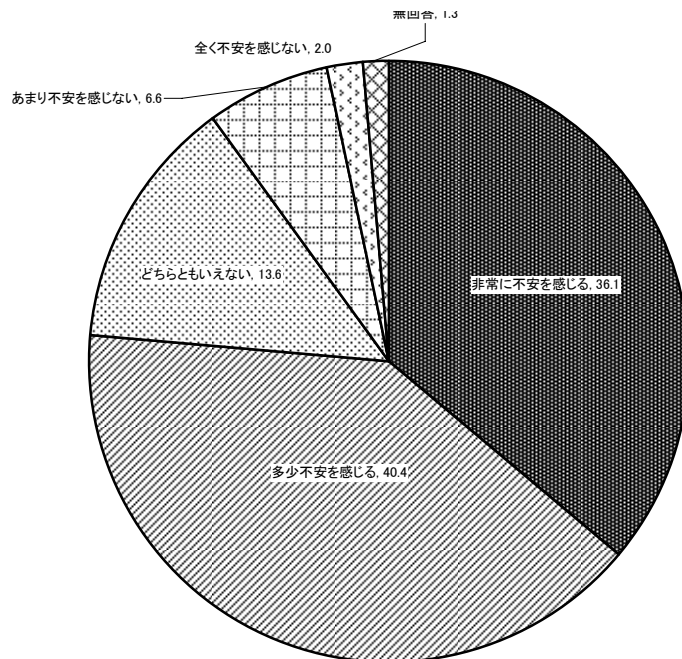
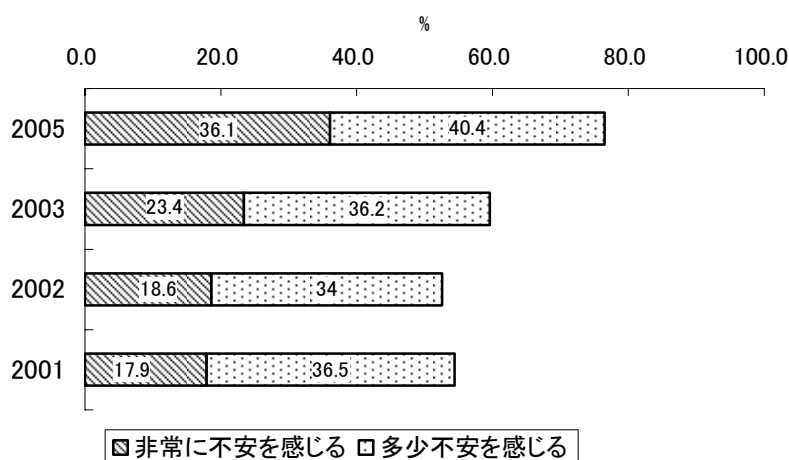
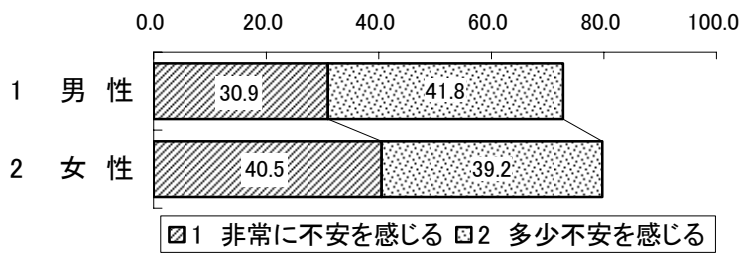


図 13.2 ウェブサイト、メールの内容がもれてしまうことへの不安 (2001~2005 年の変化)



性別に比較してみると、図 13.3 に示すように、男性よりも女性の方が強い不安を感じているという傾向がはっきりとみられる。

図 13.3 性別にみたウェブサイト、メールの内容がもれてしまうことへの不安 (%)



年齢別にみると、「非常に不安」の割合がもっとも高いのは 50 代であり、60 歳、40 代がこれに次いでいる。また、インターネットの利用有無との関連をみると、インターネット利用の方が非利用者よりも有意に強い不安を感じているという結果が得られている。

13.1.2 名前・住所・勤務先・クレジットカード番号・パスワードなどの個人情報漏洩への不安

図 13.4 は、「名前・クレジットカードなどの個人情報が他人にもれてしまうことへの不安」を尋ねた結果を示したものである。「非常に不安を感じる」という人が全体の 7 割以上に達しており、「多少不安を感じる」をいれるとほぼ 9 割の人が個人情報漏洩に対する不安をもっていることがわかる。

図 13.4 名前・住所・勤務先・クレジットカード番号・パスワードなどの個人情報が他人にもれてしまうことへの不安 (%)

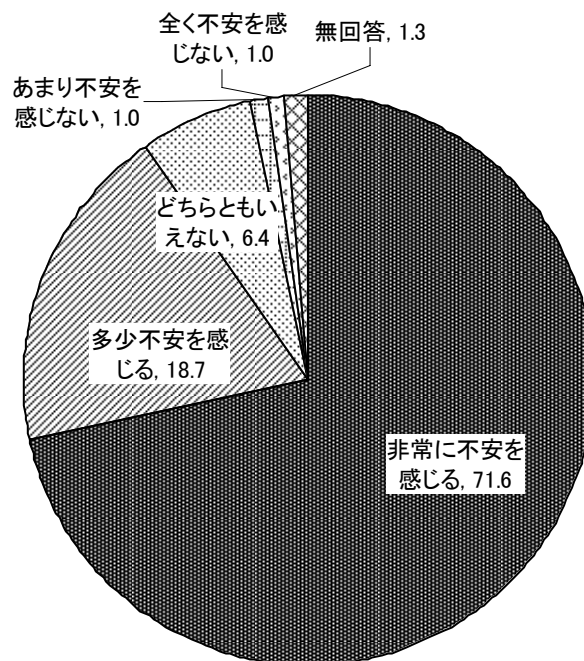
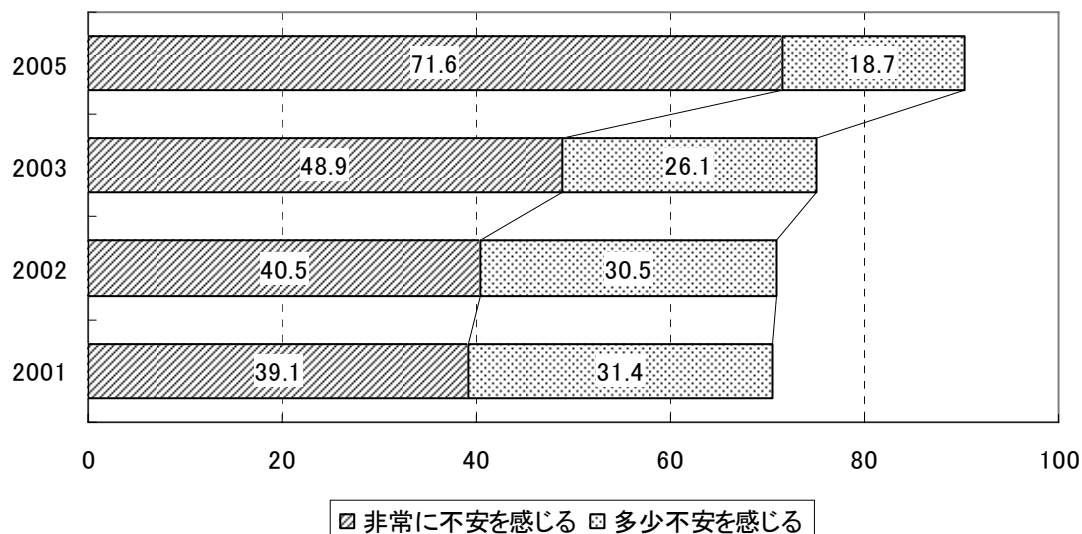


図 13.5 名前・住所・勤務先・クレジットカード番号・パスワードなどの個人情報が他人にもれてしまうことへの不安 (%) (2001 年～2005 年の変化)



2001 年から 2005 年までの回答率の変化をみると、2003 年から 2005 年にかけて、個人情報漏洩に対する不安が急激に増大していることがわかる。これは、インターネット上の個人情報漏洩事件が相次いで起こり、それがマスコミでも大きく報じられてこと、2005 年 4 月から個人情報保護法が全面的に施行されたことなどが影響しているものと思われる。

性別に比較してみると、男性よりも女性のほうがインターネット上の個人情報漏洩に対して「非常に不安」を感じる割合が有意に高くなっている。年齢別にみると、「非常に不安」という人は 30 代と 40 代に比較的多いという傾向がみられる。また、インターネットの利用有無別にみると、インターネット利用者の方が非利用者よりも有意に不安を強く持っているという結果が得られている。

13.2 コンピュータウイルスへの不安

次に、コンピュータウイルスに感染されることへの不安をみよう。2000 年以降、コンピュータウイルスが急増している。最近とくに多いのがウィルスメールで、検出されるコンピュータウイルスの大半を占める。なかでも、W32/Netsky と呼ばれるメール添付ファイル形式のウイルスが全検出数の 79.0%を占めている (IPA 調べ、2004 年 8 月現在)。また、総務省が 2004 年 7 月に発表した情報の安全対策に関する実態調査によると、東京証券取引所上場企業の 61%、大学の 71%が、2003 年中にコンピュータウイルスに感染するなどサイバー攻撃で被害を受けていたという。

コンピュータウイルスに感染することに対する不安をみると、「非常に不安を感じる」人が全体の 51.1%と過半数に達している。「多少不安」を含めると 80%の人が不安を感じているという結果になっている。

図 13.6 コンピュータウィルスの感染への不安 (%)

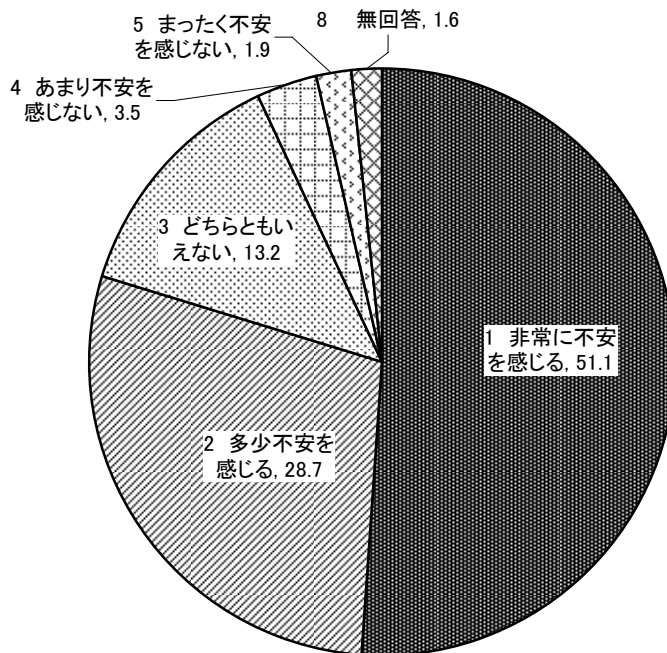
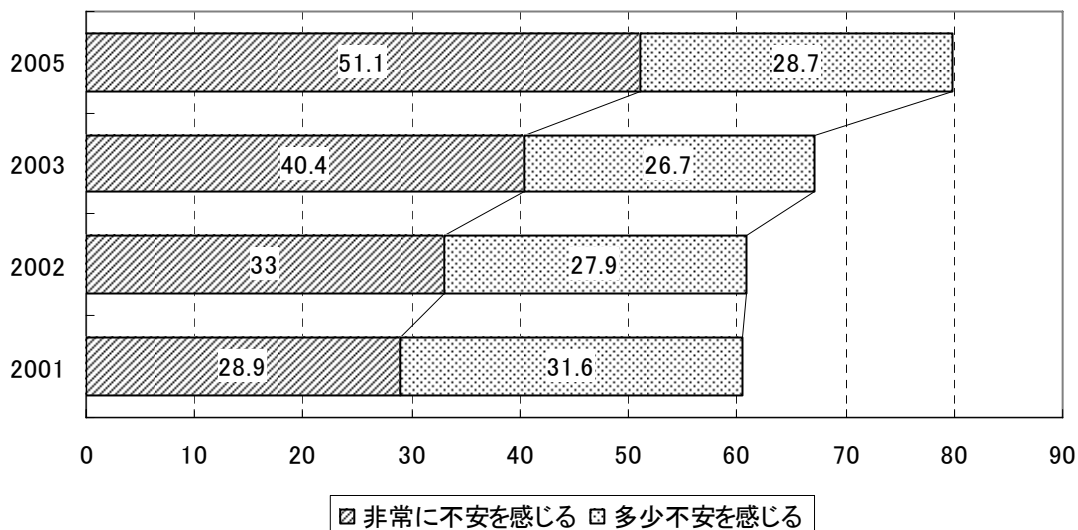


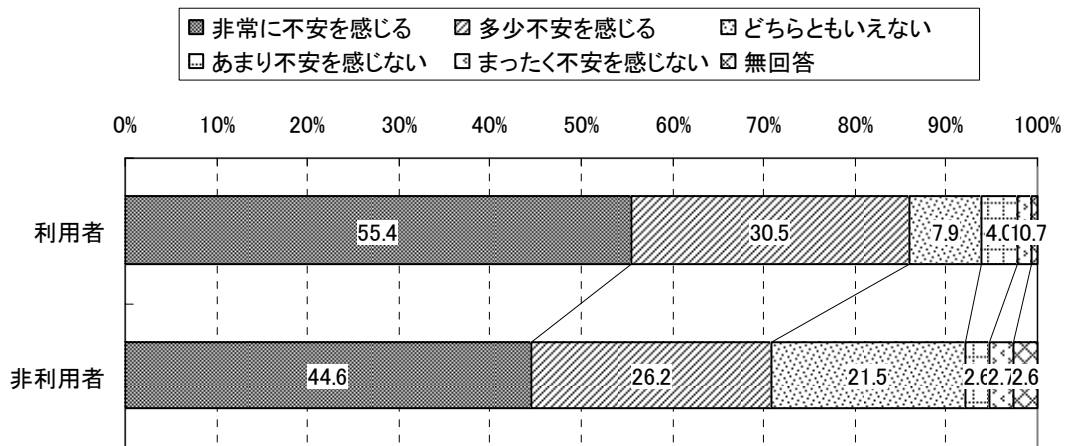
図 13.7 コンピュータウィルスへの不安 (2000 年~2005 年の変化) (%)



2000 年から 2005 年までの回答率の変化をみると、図 13.7 のようになっている。2003 年以降、不安を感じる割合が増加に向かっていることを示している。現実にはコンピュータウィルスが急増しているという状況を反映したものと考えられる。

コンピュータウィルスに対する不安を性別に比較してみると、個人情報漏洩の場合とは異なって、回答率にほとんど性差はみられなかった。年齢別で比較してみると、10 代と 40 代での不安度が比較的高く、20 代では不安度がもっとも低いという傾向がみられた。また、インターネット利用有無との関連をみると、利用者の不安度が非利用者に比べて非常に高いという傾向がはっきりとみられた (図 13.8)。これは、インターネット利用者の場合、日常的にコンピュータウィルスの危険を感じたり、実際に感染する被害を経験した人が多いためだろう。

図 13.9 インターネット利用有無別にみたコンピュータウイルスへの不安 (%)



13.3 不正アクセスに対する不安

不正アクセスによって勝手に他人のパソコンの中身を知られたり、改ざんされたり、データを盗まれるなどの事件も相変わらず頻発している。この点についての不安を聞いたところ、「非常に不安を感じる」人が 57.1%、「多少不安を感じる」人が 24.8%で、合わせると約 83% もの人が不安を感じているという結果が得られた (図 13.9)。

2000 年から 2005 年にかけての不安度の変化をみると、図 13.10 に示すように、2000 年調査の時点からはほぼ一貫して、不安度が増大し続けていることがわかる。

性別で比較してみると、不正アクセスに対して「非常に不安を感じている」のは男性よりも女性の方に多くなっている。年齢別にみると、不正アクセスに対して「非常に不安を感じる」割合がもっとも高いのは 10 代であり、もっとも低いのは 20 代だった。インターネット利用者と非利用者を比べると、「非常に不安を感じる」割合では両者にほとんど差はみられないが、「多少不安を感じる」を合わせると、インターネット利用者の方が不安は強いという傾向がみられる。

図 13.9 パソコンの中身を知られたり、データを改ざん・盗難されることへの不安

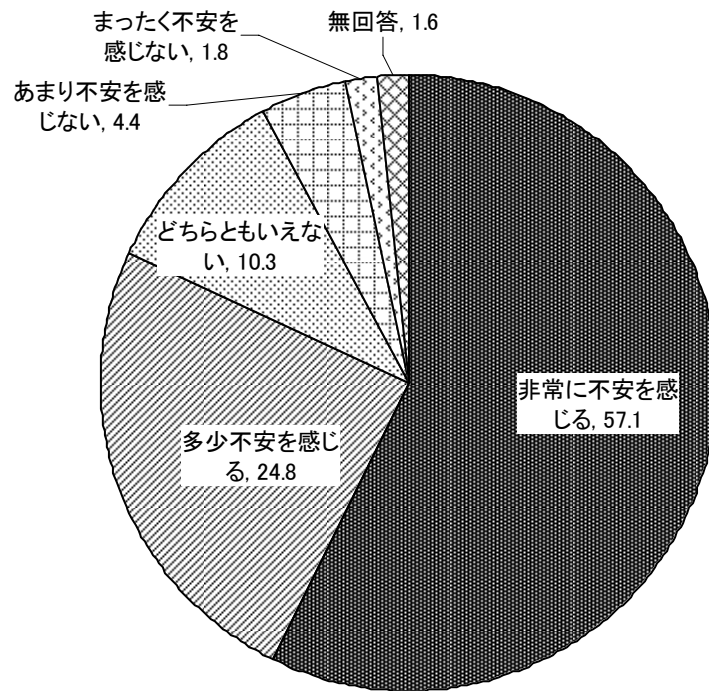
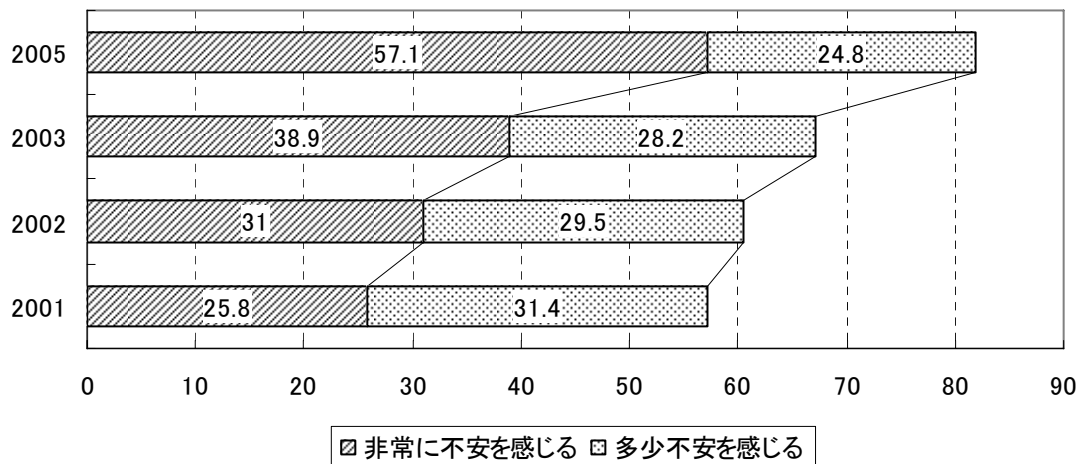


図 13.10 パソコンの中身を知られたり、データを改ざん・盗難されることへの不安 (2000年～2005年の変化)

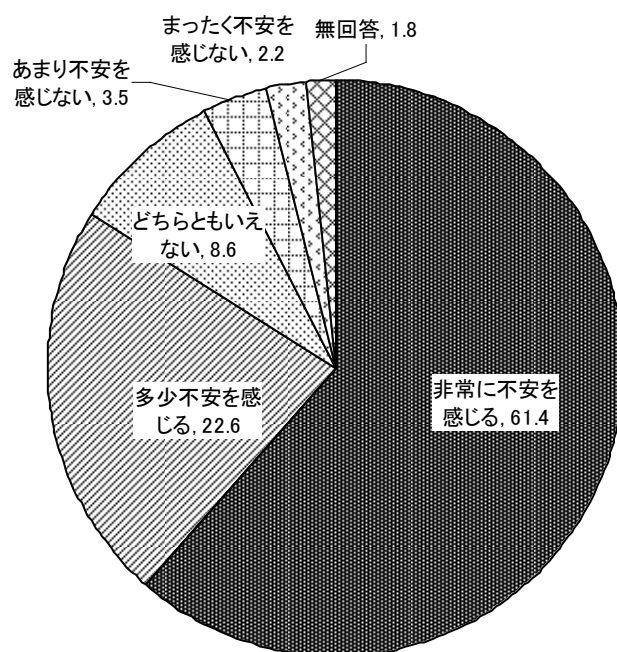


13.4 インターネット違法請求への不安

今回の調査で新たに加えた設問として、「インターネットを使ったことで、身に覚えのない工学の請求をされて被害を受けること」への不安がある。これは、最近インターネットや携帯電話、携帯メールなどを使って高額な違法請求を行うという犯罪が急増しているためである。とくに、ここ数年大きな社会問題になっているのが、「携帯ワン切り」による悪質な違法請求事件である。その手口は次のようなものである。業者が不特定多数の携帯電話あてにランダムに大量コールを送りつけ、ワンコールだけで切ると、相手側に着信履歴だけが残る。それを受けた人が、知人かと思ってコールバックすると、自動的に有料の出会い系サイトやアダルトサイトにつなぎ、後ほど法外な額の請求書が送りつけられるというものである。こうした悪質な違法請求事件は、携帯電話だけではなく、インターネット上でも多数発生しており、その手口も法の網をくぐり抜けるように巧妙になっており、犯罪と対策のいたちごっこの様相を呈している。

この問題についての不安を聞いたところ、図 13.11 のような結果が得られた。全体の 61.4% の人が「非常に不安を感じる」と答えており、この問題に対する不安の強さを伺わせる。

図 13.11 インターネット上の違法請求への不安 (%)



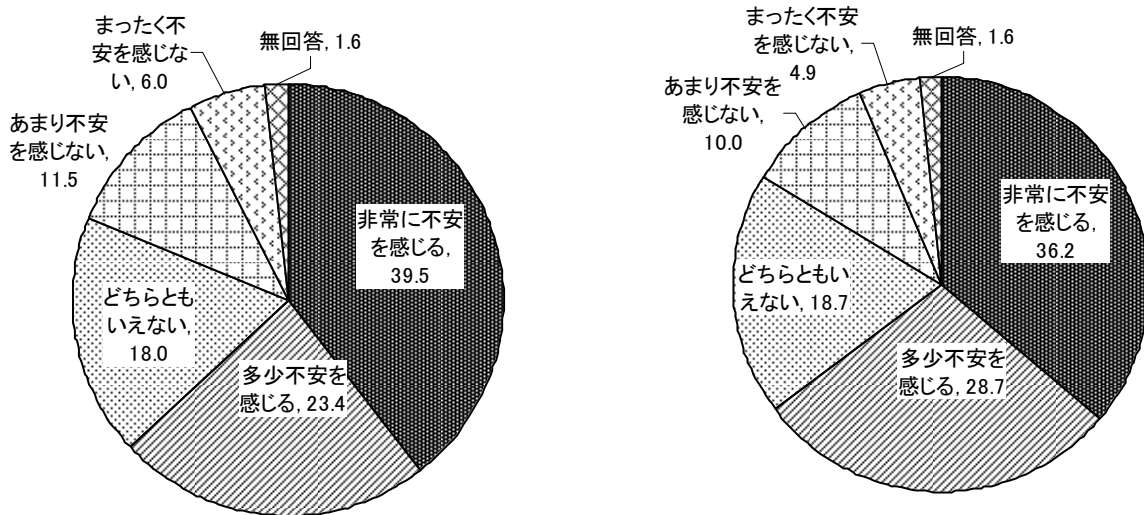
性別で比較してみると、「非常に不安を感じる」という人の割合が、男性では 54.4% であるのに対し、女性では 67.3% にも達しており、女性の方が強い不安をもっていることがわかる。これは、携帯電話を使った「ワンギリ」違法請求事件が影響しているものと思われる。年齢別にみると、不正アクセス問題の場合と同様に、「非常に不安を感じる」人の割合は、10代でもっとも高く、20代でもっとも低いという傾向がみられる。インターネット利用有無との関連をみると、「非常に不安を感じる」人の割合はインターネット非利用者の方が多いのに対し、「多少不安を感じる」人の割合はインターネット利用者の方が多くなっており、両者を合わせると、利用者の方が不安度がやや高いという結果になっている。

13.5 インターネット上の有害情報への不安

インターネット上では、掲示板でのフレーミング（中傷誹謗、悪口などの書き込み）、流言の伝播など、いわゆる有害情報が飛び交うという問題がある。この問題についての不安感を聞いたところ、図 13.12 のような結果が得られた。

図 13.12 インターネット上の有害情報への不安 (%)

インターネット上の掲示板などに自分に対する中傷や悪口などを書かれることへの不安
 インターネットや携帯メールのデマ情報有害な情報に惑わされることへの不安

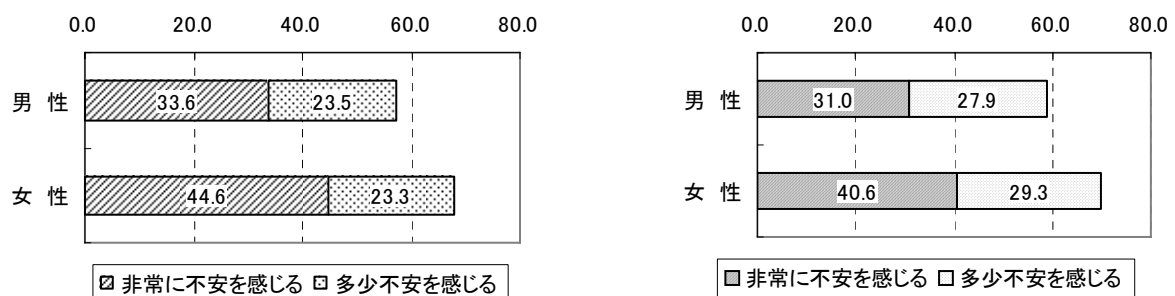


どちらの問題に対しても、4 割弱の人が非常に不安を感じており、多少不安を含めると 6 割以上の人がある程度の不安を感じているという結果が得られている。

性別に比較してみると、男性よりも女性の方が、こうした有害情報への不安が有意に強くなっている（図 13.13）。

図 13.13 性別にみたインターネット上の有害情報への不安 (%)

インターネット上の掲示板などに自分に対する中傷や悪口などを書かれることへの不安
 インターネットや携帯メールのデマ情報有害な情報に惑わされることへの不安



年齢別にみると、10代をのぞくと、年齢とともにネット上の有害情報への不安度が高くなるという傾向がみられる。また、インターネット利用有無との関連をみると、他のインターネット不安とは反対に、インターネット非利用者の方が利用者よりもインターネット上の有害情報に対する不安が強いという傾向が有意にみられる。

